

協働性・同僚性を高めるための音楽表現活動

音楽教育講座 井上 洋一

1 授業の目的

本授業は小学校教員として身につけておくべき音楽表現の基本的な技術を修得することを目的としており、小学校教員免許状取得に必要な選択必修科目である。

2 授業の到達目標

- (1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- (2) 小学校教科書掲載程度の楽曲の弾き歌いができる。
- (3) 音楽を愛好する心情を演奏を通じて表現できる。

3 小学校サブコースの学担として

授業者は、3年ぶりに本授業科目を担当した。平成28年度までの履修者は、旧学校教育教員養成課程の複数の専修・コースに所属する学生が混在していた。今回は、全員、小学校サブコースの学生であり、授業者が学生生活担当教員である。現在の小学校サブコースでは、3年生前期から、卒業研究担当教員が所属する講座に配属となるため、今後は、クラスまとまって学ぶ機会は減っていく。本授業を通して、クラスメイトとしての協働意識を高め、その学びから、相互に授業力を高めていけるような関係、すなわち、将来の教員として有用な資質である同僚性を養いたいと考えた。

4 協働性・同僚性を養うための工夫

本授業は、授業の目的をふまえ、基本的な音楽理論、ピアノ演奏法と歌唱法の基礎知識および演奏技能獲得に主眼をおいていた。

平成28年度の授業評価・研究報告では「チーム学校の一員を養成する初等音楽」をテーマに、音楽の専科教員レベルの技能から、(音楽経験が少ない)学級担任レベルに基準を引き下げ、到達目標の(3)の内容に重点をおいて、学習者自らが音楽の楽しさを味わうこと、そして、それを子どもたちに伝えるための表現力を身につけるための授業の工夫と評価について報告した。

本報告では、平成28年度の改善の方向に沿いながら、学習者同士が、支え合い、認め合う協働的な学びを通して、表現力を高めていくことを目指した工夫と評価について述べる。

(1) 授業形態と時間配分についての工夫

効率的な理論指導、個に応じた実技指導、さらに楽しい音楽活動を取り入れるために、クラスを3人ずつの2グループに分け、全体～グループ～全体の流れで授業を実施した。次は、90分(本授業は3限目)の授業の時間配分である。

○12:40～13:00【全体レッスン】

受講票配布・全体指導(楽典・発声法・合唱)

○13:00～14:00【グループ別個人レッスン】

①13:00～Aグループ

②13:30～Bグループ

※AグループとBグループの順は各回交代する。

※グループ別個人レッスンの一人当たりの指導時間は10分程度とする。

※他方のグループは個人練習室を使った個人練習の他、中間発表会や最終発表会で行うグループ発表に向けた打ち合わせや練習を行う。



個人レッスン

○14:00～14:10【評価】

自己評価表(カルテ)の記入と受講票提出

(2) 全体レッスンとグループ別個人レッスン

全体レッスンでは、小学校の音楽の授業や特別活動の場で歌われることの多い愛唱歌を教材とした。発声練習や音取りの指導は授業者主導で行っていたが、授業の回数を重ねるうちに、個々の音楽経験、演奏技能に応じて徐々に役割分担ができるようになり、パート分けや指揮、ピアノ伴奏を学習者中心で行うようになった。

グループ別個人レッスンでは毎回、個人で伴奏と弾き歌いを行うが、他の学習者が児童役として

一緒に歌うこととし、どういう伴奏が歌い易いのか体験的に学ばせた。今年度は履修者数が6名と少なく、じっくりと個人レッスンの時間が確保できたため、児童役の学生も「弾けるまで待つ」「弾けたら称賛する」ような、温かい人間関係が生まれていった。

また、中間発表会、最終発表会の2回の発表場面を設定した。中間発表会では、グループ発表のみ、最終発表会では弾き歌いの個人発表とグループ発表の両方を課して評価した。ピアノと歌の技能は個人差が大きいですが、グループ発表では、それらをふまえて両グループとも役割分担し、個性豊かな発表を行った。



3人4手連弾による弾き歌い

5 授業評価

(1) アンケートによる授業評価

最終回の授業において、授業全体を振り返らせ、12項目のアンケートを実施した。

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1 | シラバスに示された授業内容であった。 |
| 2 | 小学校科目として「初等音楽」を学ぶ意味が理解できた。 |
| 3 | 実技の指導や説明はわかりやすかった。 |
| 4 | 練習曲の選曲や配付した教材は適切だった。 |
| 5 | 小学校教科書程度の教材の伴奏の技能が身についた。 |
| 6 | 小学校教科書程度の教材の弾き歌いの技能が身についた。 |
| 7 | 音楽を愛好する心を、演奏を通じて表現できるようになった。 |
| 8 | 自分なりに意欲をもって授業にのぞんだ。 |
| 9 | 「初等音楽」の授業は自分にとって役に立った。 |
| 10 | 教育実習に行く際の自信ができた。 |
| 11 | 授業時間外の練習の時間はどれくらいか？ |
| | 週平均（約 時間） |
| 12 | 授業の自由な感想、よかったところ、改善したらよいところなど。 |

質問1～11は、4：そう思う、3：おおよそそう思う、2：あまり思わない、1：まったく思わない、の中から最も近い考えを選択させた。

質問11は、授業時間外の練習時間（週平均）を具体的に記入させ、質問12は自由記述とした。

質問1～11を質問の意図と教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）と照らし合わせ、質問2～4（DP1知識・理解）、質問5・6【DP2技能】、質問7【DP3思考・判断・表現】、質問8～10【DP4関心・意欲・態度】に区分し

た。

次の表は、各質問の回答者数と平均である。

区分・DP	質問	4	3	2	1	平均
シラバス	1	5	1	0	0	3.83
DP1 知識・理解	2	5	1	0	0	3.83
	3	5	1	0	0	3.83
	4	6	0	0	0	4.00
DP2 技能	5	3	2	1	0	3.33
	6	3	2	1	0	3.33
DP3 表現	7	5	1	0	0	3.83
DP4 関心・意欲	8	6	0	0	0	4.00
	9	6	0	0	0	4.00
	10	3	3	0	0	3.50
授業外学習	11	週平均		3.75	時間	

（提出 6名 履修者 6名 回収率 100%）

6 考察

質問8は4.00であり、全員が意欲をもって授業にのぞむことができた。到達目標(3)に重点をおいた授業の工夫の成果ととらえたい。しかし、質問9も4.00と授業が役に立ったと回答しながら、質問10が3.83と少し下がるのは、教育実習に行く際の自信ができたとは言い切れない学習者の本心である。その原因は質問5・6【DP2技能】の3.33が示す通り、伴奏や弾き歌いの技能への不安である。演奏技能は、継続した練習で身に付くものであることから、教育実習までの半期間も、個人練習室を活用して自主的な練習をするよう呼びかけたい。

今回のアンケート結果は全体的に平均が高く、これまで授業者が初等音楽を担当して実施したアンケートの中で最も高評価である。これは、技能面に不安はあっても、少人数で身近な仲間とアットホームな雰囲気の中で学ぶことができたことによる。自由記述の中に「少人数で参加しやすかった」という声が複数あった。次年度以降の初等音楽のクラス分けにおいても考慮したい。

7 地域社会を核とした教育と研究のつながり

愛媛県内は小規模校が多く、音楽の専科教員をおく学校は少ない。本授業で経験した個人差や個性をもった成員が、支え合いや認め合える関係の中で、役割や分担をしながら協働してゴール（本授業では音楽表現活動）に取り組む活動は、小学校教育実習で展開される組別研究授業にも生かされ、将来、教員の同僚性に結びつくものであると考える。